

石川町地域公共交通総合連携計画 概要版

平成26年3月

石川町地域公共交通活性化協議会・石川町

1. 石川町地域公共交通総合連携計画とは

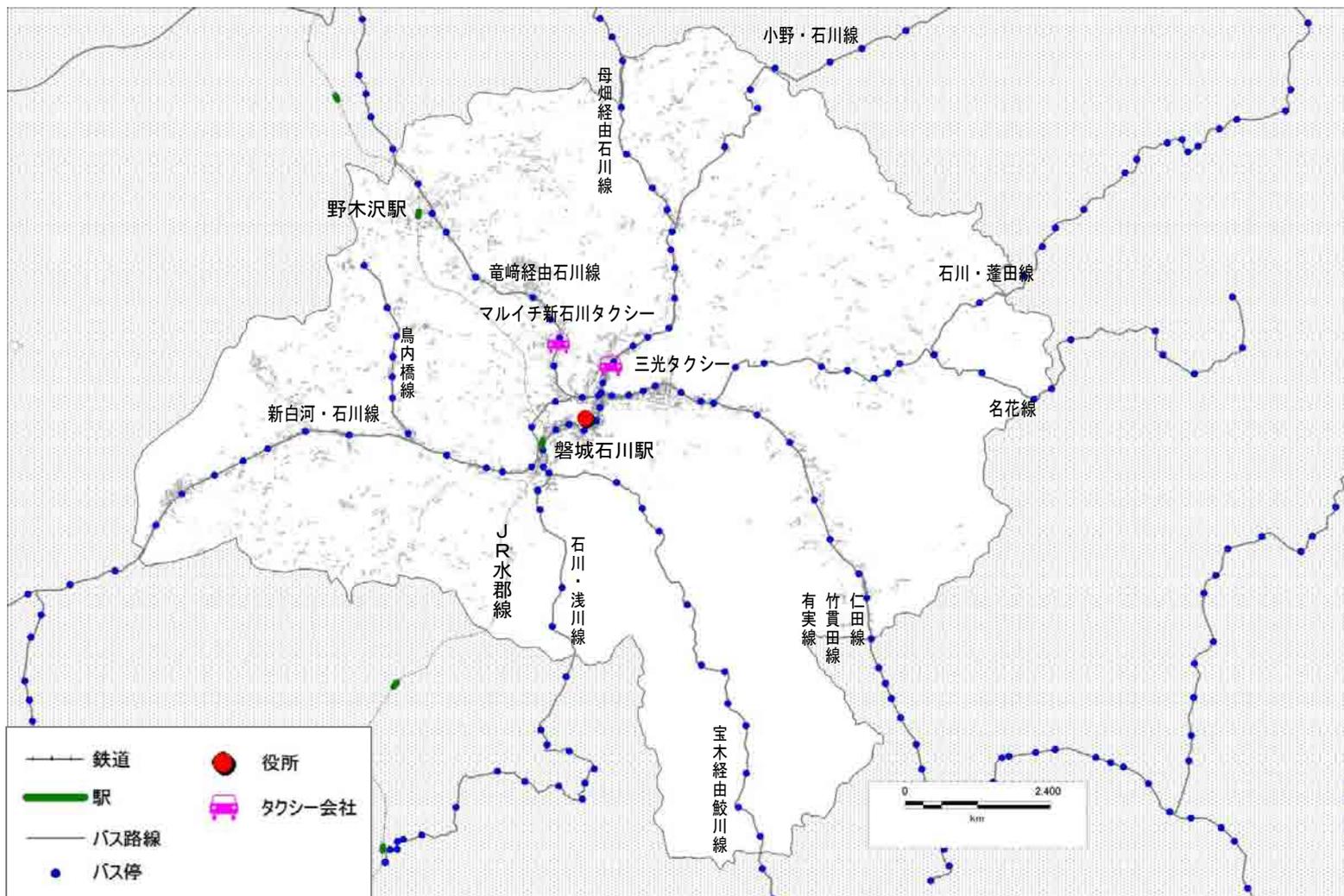
- 石川町には、JR、路線バス、タクシーと様々な移動手段があります。
- しかし、これらの移動手段が使いづらい面もあり、外出に困っている方もいらっしゃいます。
- 本計画は、町内の鉄道・バス・タクシーをより使いやすくし、かつ、持続可能とし、みなさんが外出しやすいまちを創ることを目的として策定しました。



2. 本町の移動実態

(1) 本町の公共交通

○本町には、JR水郡線(2駅)、路線バス12路線、タクシー会社2社があります。

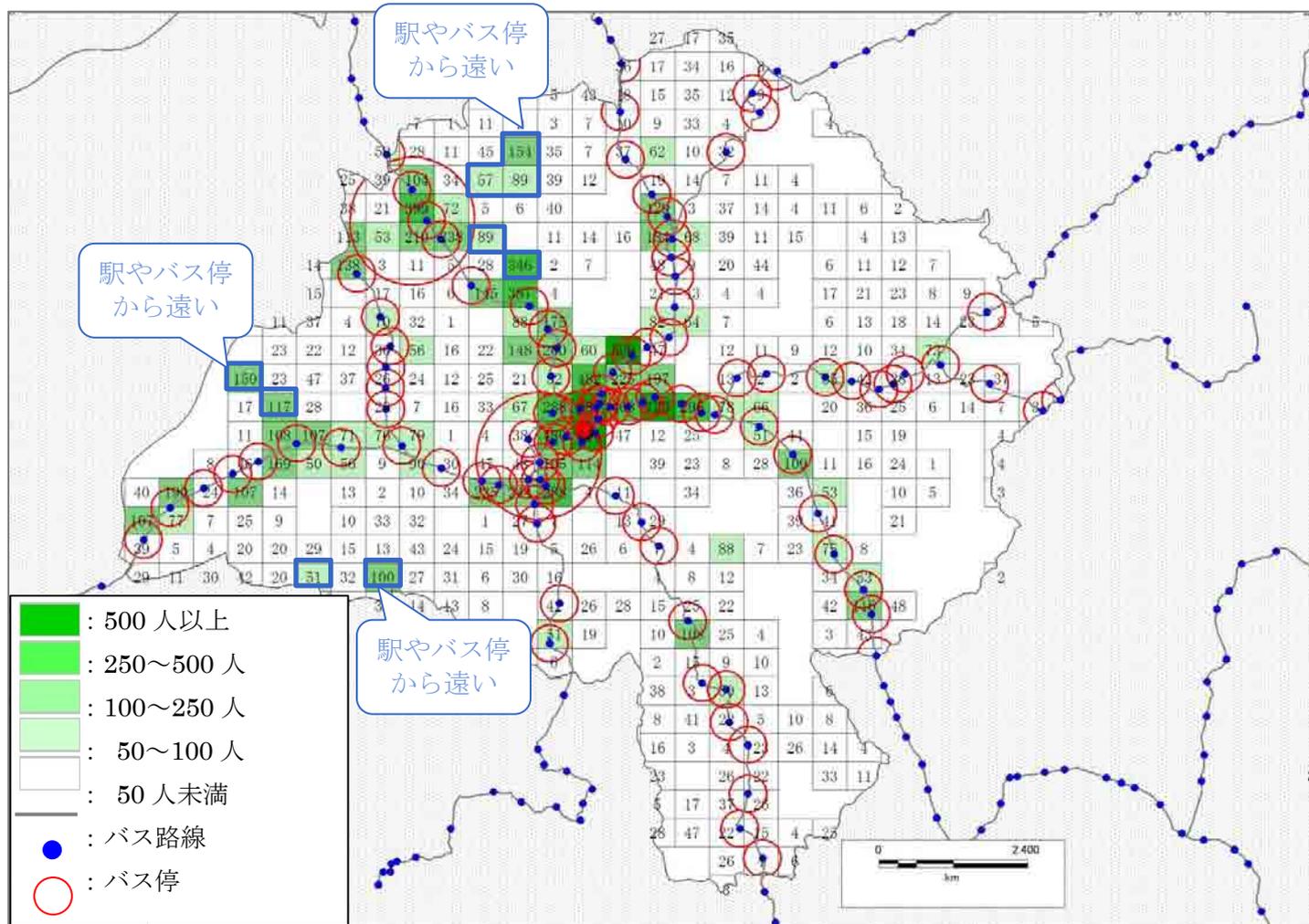


▲地域公共交通の状況

2. 本町の移動実態

(2) 公共交通の利用圏

○しかし、バス停から遠くに住んでいるため、鉄道やバスを自由に使えない住民も多く存在します。

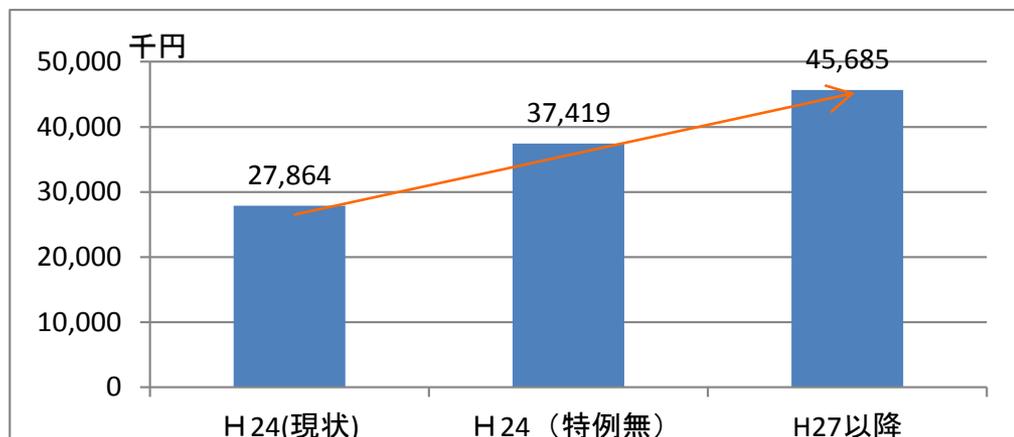


▲鉄道駅、バス停の利用圏と人口分布

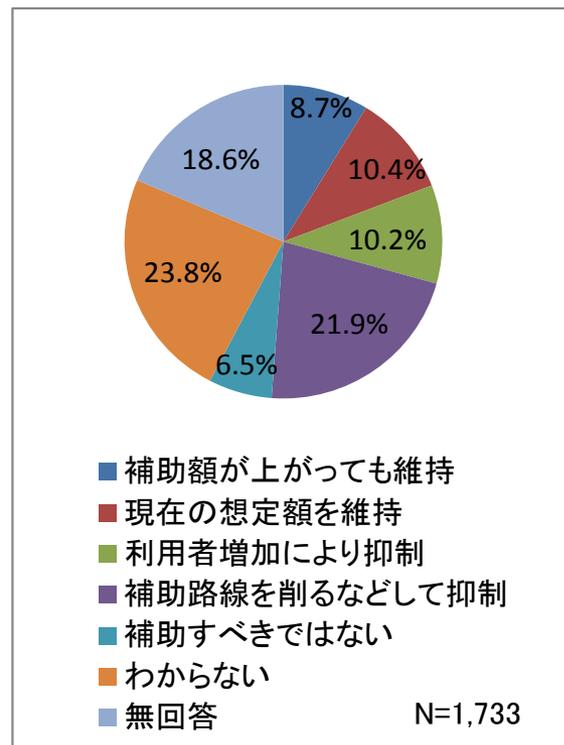
2. 本町の移動実態

(3) 公共交通に対する本町の負担額

- 一方で、バス路線を維持するため、約3,000万円を補助しており、今後、町の負担額は更に増えることが想定されています。
- 町民のみなさんは、バスの維持に町の支援は必要ですが、効率化を求める方もいらっしゃいます。



▲補助額の比較



▲町のバスへの支援のあり方

N=1,733

2. 本町の移動実態

(4) JR水郡線の現状

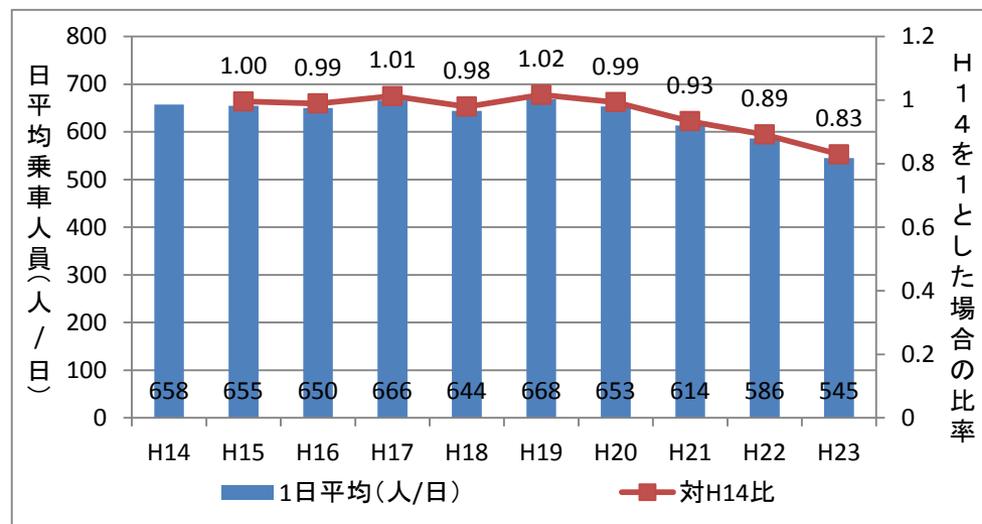
○JR水郡線は、今より多くの人に使ってもらえるよう、沿線市町村で取り組んでいます、町内の利用は減少傾向にあります。



▲水郡線児童絵画展



▲車両のラッピング



▲磐城石川駅の乗車人員の推移



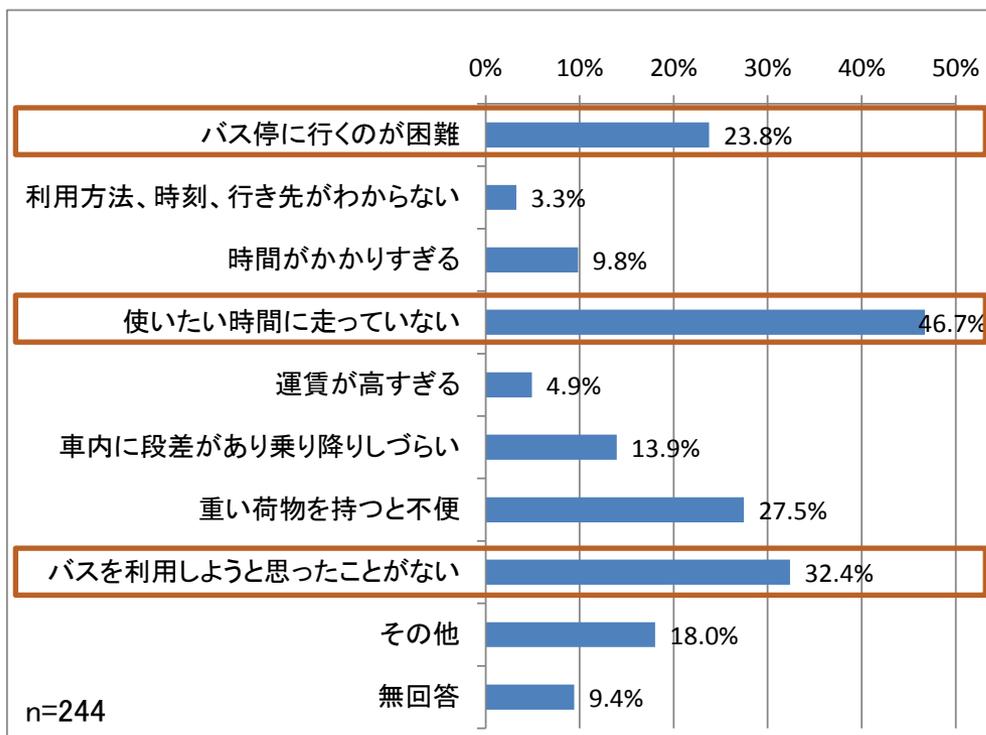
2. 本町の移動実態

(5) 路線バスの現状

○バスの利用もあまり多くありません。

○理由としては、「バス停に行くのが困難」な他、「使いたい時間に走っていない」

「バスを利用しようと思ったことがない」「重い荷物を持つと不便」という意見が多くあります。



▲独居高齢者等がバスを利用しない理由

	最寄:リオンドール石川店(9:00開店)				
	仁田、竹貴田、有実			石川・蓬田、名花	
	石川駅行	石川営業所行	古殿行	石川営業所行	平田行、名花行
6					
7	38	53	10	44、46	20
8	01	0			
9		23		24	
10					
11					
12			0		
13		50	25		20、40
14				31	
15			20、30		10
16		08	40	14	40
17	08	28	00、55		05
18			50		
19					

帰りの便がない

学休日運行

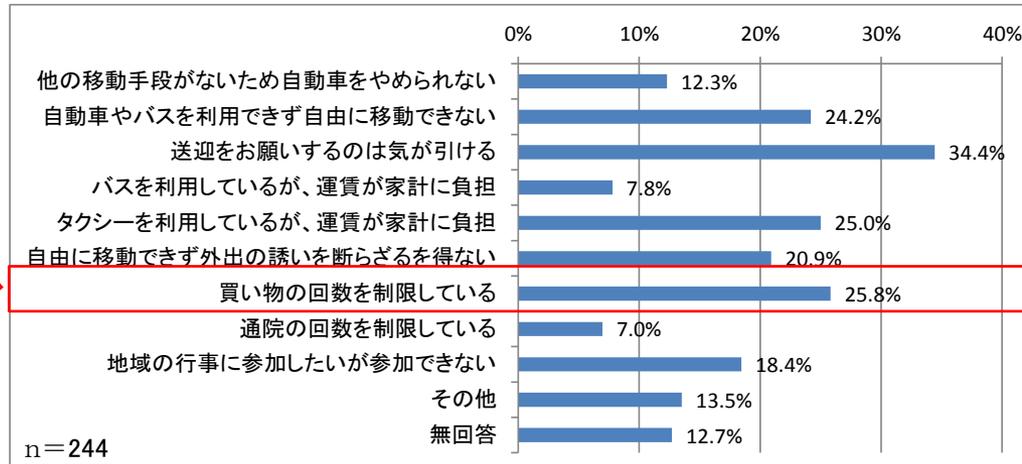
▲主な食品スーパー最寄バス停の時刻表

2. 本町の移動実態

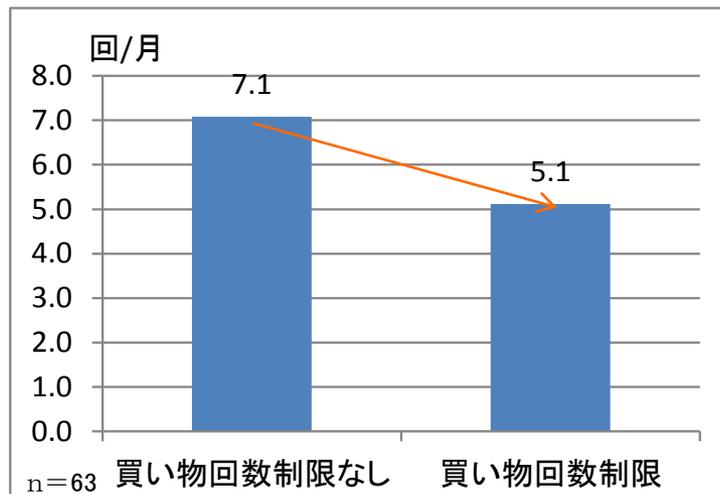
(6) 外出における困りごと

○町民の約4割は、外出において何らかの困りごとを抱えています。

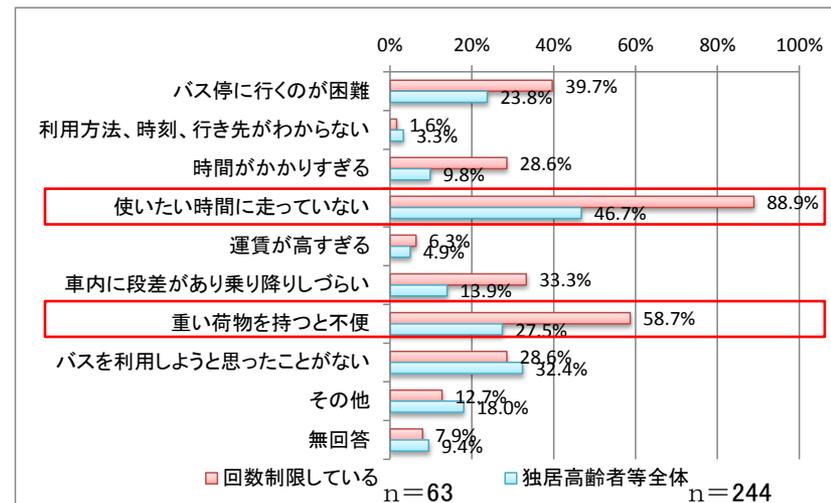
○特に、独居高齢者や高齢者夫婦の4人に1人は、買い物の回数を月2回程度制限しています。



▲ 外出で困っていること



▲ 「買い物回数を制限している」回答者の買い物頻度



▲ 「買い物回数を制限している」回答者のバスを使わない理由

2. 本町の移動実態（まとめ）

- 自由に移動ができず困っている町民が存在します。
- 地域公共交通は、町民の日常生活の“足”としての役割を十分に果たせていません。
- 厳しい財政状況の中、現在の地域公共交通体系の維持は困難な状況にあります。



3. 本町の地域公共交通の課題

○クルマに乗れなくても住み続けられる移動環境の形成が課題です。

○限られた予算の中、末永く移動環境を維持・活性化し続けることが課題です。

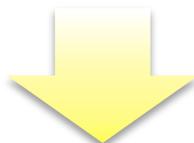
○住民、交通事業者、行政の協働による取り組みが課題です。

4. 本町の地域公共交通の基本方針と計画の目標

◆地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針

石川町の地域公共交通の課題

- クルマに乗れなくても住み続けられる移動環境の形成が課題
- 限られた予算の中、末永く移動環境を維持・活性化し続けることが課題
- 住民、交通事業、行政の協働による取り組みが課題



基本的な方針

みんなでつくり、守る、快適な移動環境

◆地域公共交通総合連携計画の目標

- ひとりでも多くの町民がクルマに乗らなくても生活できる地域公共ネットワークの構築を目指します。
- ひとりでも多くの町民が当たり前のように地域公共交通を利用する雰囲気醸成を目指します！
- 町民、事業者、行政で地域公共交通をつくり、育てる仕組みの構築を目指します！

5. 主な取り組みの紹介

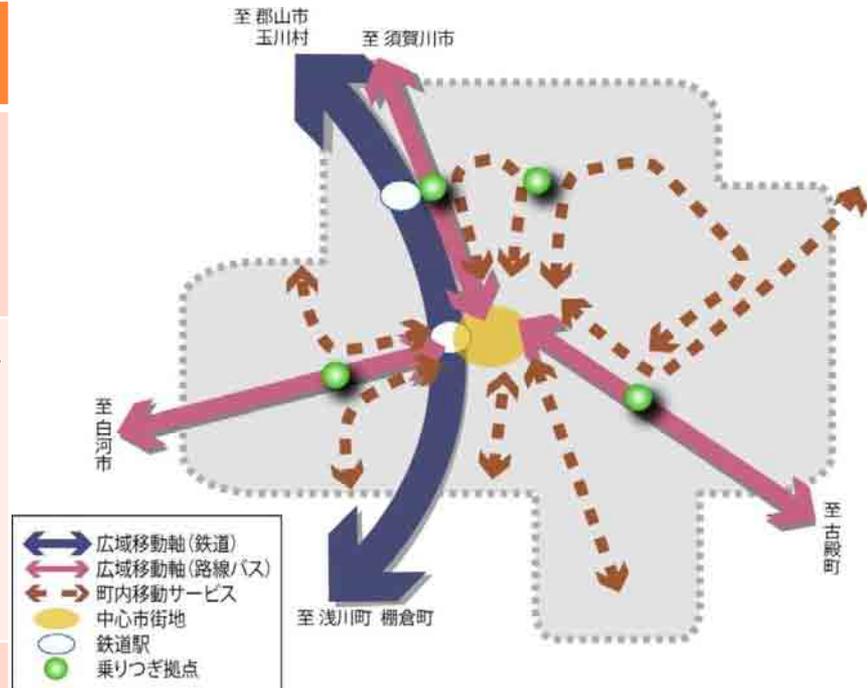
(1) ひとりでも多くの町民がクルマに乗らなくても生活できる環境づくり

① 将来ネットワークと役割の明確化

- 各地域公共交通の位置づけを明確にします。
- バスは、広域移動軸と町内移動サービスに分け、町内の移動をしやすくします。

▼ 路線の位置づけ

位置づけ	手段	役割機能	運行・管理主体
広域移動軸	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道 ・路線バス 	<ul style="list-style-type: none"> ・町中心部と需要の多い町外を連絡 ・様々な移動に対応 ・幹線道路を通り、速達性を重視 	民間事業者による運営・運行を基本に、行政が支援
町内移動サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バス ・タクシー ・新交通 	<ul style="list-style-type: none"> ・町中心部と町内の各地を連絡 ・日中の日常生活を支える ・幹線道路以外にも広く移住する町民の移住形態に合わせた運行形態やサービスを検討 	民間事業者、地域、行政の協働
	・特定送迎	・病院送迎やスクールバスなど、特定の目的にのみ対応	各運営主体が主体的に実施



▲ 将来ネットワークイメージ

5. 主な取り組みの紹介

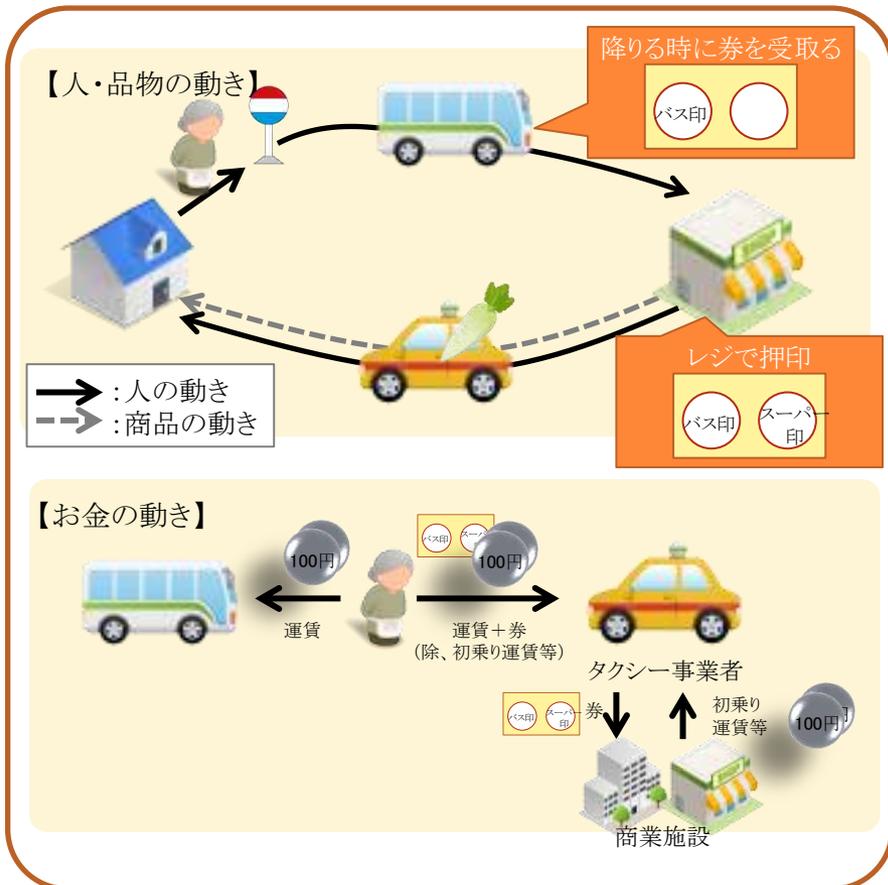
(1) ひとりでも多くの町民がクルマに乗らなくても生活できる環境づくり

① 新たな移動手段の導入検討

- 地域のみなさんが主体になった移動手段の構築を町が支援します。
- 買い物がしやすくなるように、新たな事業を検討します。

参考事例～コミュニティタクシー～

- 平成17年10月の合併を機に、「山口市市民交通計画」の策定に取り組み始める。
- 地域勉強会を開催し、市と住民で最適な移動手段確保策について一緒に検討を開始。
- 地域に最適な持続交通の一つとして“コミュニティタクシー”が提案される。
- 平成19年5月市報で、コミュニティタクシー実証実験モデル地域を募集。応募した地域では、住民らが自ら運行ダイヤやバス停の設置、企業協賛集めや回数券購入など採算性を考えた。
- 平成19年12月の小郡地域「サルビア号」を皮切りに、現在8地域がコミュニティタクシーを運行。



5. 主な取り組みの紹介

(2) 当たり前のように地域公共交通を利用する雰囲気醸成

- マップやガイドブックなどを制作、配布し、公共交通をわかりやすく伝えます。
- 定期的に報告会等を開催し、みなさんと意見交換できる場をつくれます。



▲ガイドブックの事例(ひろさき電車とバスのガイドブック)



▲バスマップ・時刻表の事例(当別町)



▲報告会のイメージ(湖西市)

6. 取組みスケジュール

平成26年度

- 関係市町村と路線バスのあり方について協議し、方向性を決めていきます。
- 町内移動サービスについてモデル地区で検討を始めます。
- 買い物支援交通を検討し、可能であれば実証実験を行います。
- PDCAサイクルの年間の取組みを検討します。



平成27年度以降

- モデル地区以外でも町内移動サービスを検討し、石川町の地域公共交通ネットワークを構築します。
- マップやガイドブックなどをつくり、構築したネットワークをわかりやすくみなさまにお伝えします。
- PDCAサイクルの実行を通じ、ネットワークをよりよいものに改善していきます。

石川町地域公共交通総合連携計画【概要版】
平成26年3月

発行 編集 石川町地域公共交通活性化協議会
(石川町役場総務課)

〒963-7893 福島県石川郡石川町字下泉153番地の2
Tel 0247-26-9114 fax 0247-26-0360

